

控訴審判決のお知らせ

2017年12月14日(木) 午前11時20分～ 東京地裁101号法廷

重慶大爆撃裁判控訴審は、2017年12月14日に判決をむかえます。

判決当日は朝から東京高等裁判所前にて宣伝活動やデモ行進を予定しております。中国の爆撃被害地から来日予定の重慶の原告陳桂芳さん、粟遠奎さん、簡全碧さん、倪世珍さん、葉玉蘭さん、侯岩琳さん、姜遺福さん、成都の原告楊小清さん、樂山の原告雷時仁さん、各地の支援者ら約30人以上が活動に参加し、東京高等裁判所前での発言を予定しています。

宣伝活動やデモ行進は誰でも参加できます。裁判の傍聴も含め、皆様のご支援をよろしくお願いたします。

【来日原告の紹介】

重慶の原告陳桂芳さん(85歳)

1939年8月4日、避難先の重慶市江北区の洞窟で爆撃に遭い、父と母が死亡、陳桂芳さん自身も頭部、鼻、右腕などに重傷を負った。また、自宅も全壊して家財全てを失い、孤児となった。



重慶の原告簡全碧さん(79歳)

1939年5月4日の爆撃で、自宅が全壊し家財のすべてを失う。

1940年8月19日には、一家が移り住んでいた父方の実家も爆弾の直撃を受けて父方の祖母が壊れた家の下敷きになって死亡、祖母に抱かれていた簡さんも右上腹部に大怪我をした。



重慶の原告葉玉蘭さん(64歳)

重慶大爆撃裁判原告故李遠図の訴訟承継人。

1940年7月31日、自宅にいた亡父の祖母が爆撃で重傷を負い、その後大量出血で亡くなった。

味噌工場を営んでいた自宅兼工場は爆撃で全て破壊され、全財産を失った一家は住む場所も無くなった。



重慶の原告姜遺福さん(62歳)

重慶大爆撃裁判原告故姜志良の訴訟承継人。

1941年5月の爆撃で亡父の母と姉が殺された。二人は防空警報が解除され、避難していた防空洞から出たところ、再び襲ってきた日本軍から逃げるため、近くにあった石造りの橋の下に逃げ込んだが、爆発した爆弾の破片が大量に刺さって血まみれで亡くなった。



重慶の原告粟遠奎さん(83歳)

1940年8月19日、日本軍による重慶爆撃で家や家財全てを失い、1941年6月5日の爆撃では、避難先の重慶市渝中区較場口衣服街口の防空洞で長姉と二姉が殺され、父が足に重傷を負った。



重慶の原告倪世珍さん(68歳)

重慶大爆撃裁判原告故董徳芳の訴訟承継人。

1940年8月9日の爆撃で、亡母の董徳芳は、右足の脛の肉がえぐられ皮だけの状態になるほどの重傷を負った。退院後も歩くことさえ困難で、学校へ行くことも就職もできず、後遺症に悩まされ続けた。



重慶の原告侯岩琳さん(63歳)

重慶大爆撃裁判原告故危昭平の訴訟承継人。

1940年7月5日の爆撃で、重慶市碁江県の自宅に爆弾が直撃し、亡母の父と伯母が殺され、亡母の母も爆弾の破片が右足の太ももに突き刺さり、ふくらはぎは一部肉がひきちぎられる重傷を負った。



成都の原告楊小清さん(62歳)

重慶大爆撃裁判原告故安緒清の訴訟承継人。

1939年6月11日、日本軍による成都大爆撃で避難していた少城公園で亡父の姉が殺され、亡父の母はが足に重傷を負って、歩けなくなった。



樂山の原告雷時仁さん(55歳)

1939年8月19日の樂山爆撃で、自宅にいた亡父の父の頭部に爆弾の破片が命中して亡くなった。家と一家の大黒柱を失った亡父と伯母は乞食になってなんとか生きながらえた。

